

2012.October



今号の内容

新任教職員のご挨拶

ようこそ鳴門へ

こんにちは
附属です!!

鳴門教育大学の
大学開放推進事業

最前線からの報告
大学開放推進事業N * CAPの取組紹介

情報基盤センターから ~端末室活用のヒントとお願い~

4回インカレ

第29回 鳴潮祭 実行委員会委員長からのメッセージ

報告&写真集!!

一つになると、あ29(熱く)なる!
ほなけん、祭りが好きなんじょ! /ほか

学園だより

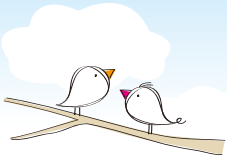
G A K U E N D A Y O R I

学園だより No.66

CONTENTS

2012.10

「あいさつ」は一仕事	学長 田中 雄三	1
ようこそ鳴門へ	～新任教職員の横顔～	2
	茶島 豊, 胸組 虎胤, 湯地 宏樹, 宮口 智成, 新見 員子, 湯口 雅史, 栗原 慶, 畑江 美佳, 寺島 幸生, 江川 克弘, 地藏堂 聡, 赤澤 正人	
もうすぐ大学祭		6
	～一つになると、あ29(熱く)なる!ほなけん、祭りが好きなんじょ!～	
	第29回鳴潮祭(大学祭)実行委員会委員長 古家 研人	
熱戦!	第63回四国地区大学総合体育大会	8
課外活動	サークル紹介	12
	天文同好会とは…	天文同好会 伊賀健太郎
	現代リズム	ストリートダンス部 新居 郁弥
課外活動News		13
学生会・院生会だより		14
	こんなことしてます, 学生会	学生会会長 矢出佳菜絵
	どうも, 院生会の会長です。	院生会会長 村井 庸佑
鳴門教育大学の大学開放推進事業		15
	子どもたちに楽しい美術鑑賞活動を!	
	芸術・健康系教育部 准教授 山田 芳明	
Welcome!	就職支援室	16
	一人一人の思いに応えたい	大学院生就職支援アドバイザー 向川 守
	お話しませんか	大学院生就職支援アドバイザー 坂東 雅子
こんにちは	附属です	18
	言葉に込められた思いを読み解くことの楽しみ	附属幼稚園 杉山 健人
	親子で学ぶ交通安全教室	附属小学校 二川 満賀
	21世紀の技術者たち	附属中学校 谷 陽子
	小学部の修学旅行	附属特別支援学校 山崎 仁寛
国際交流		20
	育ちゆく中日教師教育学術研究交流	
	第5回中日教師教育学術研究集会準備委員会委員長 梅津 正美	
	カルチャーショックから異文化コラボレーションへ 外国人客員研究員 SARJA Anneli	
	留学体験記 寺本 達矢	
	真心を持って 姜 旭	
健康手帳「虫刺症と西ナイル熱の流行」		26
	心身健康センター所長 廣瀬 政雄	
学生相談窓口紹介		27
情報基盤センターよりお知らせ		28
なるきょう通信-大学からのお知らせ-		29
環境活動		30
	～エコアクション21の対象範囲拡大～	
行事予定		31
編集後記		31



「あいさつ」は一仕事

◆ 学長 田中雄三



あいさつがキチンとできるようになることが、一人前の証左ではないかと思うことがある。祝いや喜びの席であれ、悲しみや哀の席であれ、それにか

なつたあいさつの型があり、その枠組みの中で話が進む。型にはまることを嫌う青年はあいさつが苦手であり、あいさつを嫌う。型どおりのあいさつの言葉が、自分の心情を吐露していないと思うからであろう。しかし、成人になるということは、社会制度や掟に身を委ねるということであるから、どのような場面においても一通りのあいさつができるのが大人というものである。型を知っていなければ、型どおりのあいさつはできない。全て我流で通すことも、一つの考えである。型どおりのあいさつは、話す方も聴く方も安心だが妙味に欠けるきらいがある。私は、即興が利かないから、あいさつは文章化して読み上げることを心がけている。型を守るほどに多くの型を知っていないので、型から外れ私的な感情を挟み込んでいる。

さて、過日（9月15日～17日）北京で、日中教師教育学術研究集会第5回大会が開催された。私は、基調講演で「日本の教員養成改革の現状と課題」についてお話しするとともに、会期中4回あいさつを行った（大会前夜の夕食会でのあいさつ、大会開会あいさつ、歓迎会あいさつ、返礼会あいさつ）。最初の三つのあいさつは、北京に行く前に考えていたあいさつであり、文章化したものを事前に通訳の人に渡していた。私情も混えてはいるが、かなり型どおりのものと言える。最後の返礼会（17日夜）のあいさつは、直前に手書きで文章化し、女性の通訳の方に渡した。ちょっと心配そうであったが、きれいな発音で通訳して頂いた。

以下に、学生諸君に是非伝えたい言葉があるので、そのあいさつの全文を記す。

「ウァン シャン ハオ。物事には始まりがあれば必ず終わりがあります。9月14日の夕方、私は初めて北京師範大学の門をくぐりました。薄暮の中で、石碑に刻まれた校訓く学為人師、行為世範が目に入りました。同道していた前学長高橋先生の解説により、碑文のく学びて人の師となり、行いて世の範となる」という言葉の中に、く師、く範」という文字が布置されているのを知り、ハタと手を打つ思いでした。校内のあちらこちらに、この言葉が掲げられており、感銘を受けた次第です。鳴門教育大学の大学憲章の中にも、く教育は国の基い」という言葉がありますが、両大学の教育観に共通する思想があると感じました。貴大学の校訓を持ち帰り、本学の学生諸君に紹介したいと思います。

今朝、Dr. HAO副学長を表敬訪問し、北京師範大学が今年創立110周年を迎えることを知りました。私は、この記念すべき年に本学術研究集会に参加できて果報者だと思えます。いま身につけているこのネクタイは、110周年の記念に今朝方、Dr. HAO副学長から頂いたものです。私にとって、初めての中国で熱烈歓迎を受け、充実した学術研究集会となり、そして又多くの先生方にいろいろとご配慮頂き、改めて厚くお礼申し上げます。本日は、返礼の意味を込めまして、ささやかですが夕食をご一緒したいと思います。お別れの言葉がいろいろ浮かびます。ザイジェン、アウフビーダーゼーエン、ボンボウヤージュ、グッバイ、サヨウナラ、再見などなど。しかし、みなさん、おわりは、また次のはじまりです。シェーシェ。」

型どおりではなく、拙いが、私の気持ちの方を優先させたあいさつである。

（参考文献：丸谷オ一；「あいさつは一仕事」，朝日新聞出版，2010年）

ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



◆ 理事（総務・財務担当）
副学長（予算・施設担当） ちや ばたけ 茶 晶 ゆたか 豊

みなさんこんにちは、4月から財務、施設担当理事として着任しました茶晶豊と申します。いま国立大学は厳しい財政状況と相俟って各大学・学部の存在意義を問われており、鳴教大の教育研究活動についても、様々なステークホルダーに具体的かつ明確な説明責任が求めら

れています。私も微力ではありますが今までの大学等の勤務経験を活かし、学生からは鳴教大に入って良かった、地域からは徳島・鳴門になくってはならないと言われるよう、さらには教員養成大学として全国に高く評価されるために、みなさんと一緒に全力を尽くしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



◆ 自然・生活系教育部（自然系コース（理科））教授 むね ぐみ とら たね 胸 組 虎 胤

4月に自然系コース（理科）に着任した胸組虎胤と申します。専門は生体物質の有機化学と化学教育です。私は埼玉県浦和市（現、さいたま市）出身で、大学院まで関東地方で暮らしていました。その後、アメリカのソーク研究所での博士研究員の期間を挟んで再び関東地方の筑波大学に勤務し、栃木県の国立小山工業高等専門学校にしばらく居た後、鳴門教育大に移っ

てきました。鳴門での生活は初めてですが、ここは自然に恵まれ人々もおおらかで、私には合っているようです。鳴門教育大では学生さんの希望実現を手助けできるように、自らの教育・研究力を伸ばす努力を怠らないようにしたいと思います。よろしく願いいたします。



◆ 基礎・臨床系教育部（幼年発達コース）教授 ゆ じ ひろ き 湯 地 宏 樹

みなさま、はじめまして。このたび、8月1日付けで着任致しました湯地宏樹と申します。南国・宮崎で生まれ育ち、大学時代から約25年間を広島で過ごしました。

専門は幼児教育で、おもに子どもの遊びに関する研究をしています。とくにコンピュータゲームなどのメディアを研究テーマとして取り組んで参りました。授業は「幼児教育課程論」「幼児教育

実践」「保育所実習Ⅰ・Ⅱ」「幼児期教育学研究」などを担当します。

本学はふれあい実習や研究保育（授業）など実習が充実していることにまず驚きました。自分もこれから、生涯学び続ける保育者を養成するために精いっぱい努力する所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。

ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



◆ 自然・生活系教育部（自然系コース（数学）） 准教授 ^{みや}宮 ^{ぐち}口 ^{とも}智 ^{しげ}成

昨年10月に自然系コース（数学）の教員に着任いたしました宮口智成と申します。着任から1年が経ち、新しい環境にも次第に慣れてきました。

鳴門教育大学に来るまでは、早稲田大学において3年間、北海道大学では2年間、また大阪市立大学では3年半の間、理論物理学と数学に関する

研究と教育に携わってきました。

鳴門教育大学では、確率・統計学、数学におけるコンピュータの活用、数理科学や応用数学に関する授業を主として担当しております。授業や研究を通して、数学の基礎的能力の育成に貢献すると共に、数学の楽しさや面白さを伝えられるよう努力をしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



◆ 基礎・臨床系教育部（臨床心理士養成コース） 准教授 ^{にい}新 ^み見 ^{かず}員 ^こ子

今年度4月より、臨床心理士養成コースに着任いたしました新見員子と申します。これまでは、徳島県公立学校教員として25年間、中学校で勤務して参りました。学校では、たくさんの生徒や保護者、先生方との出会いがあり、多くのことを学ばせていただきました。

本学では主に心理・教育相談室において、子どもや保護者、広く社会の方々への相談に携わって

います。相談は学校教育とは異なるところもありますが、一方では、教育も相談も「人間の可能性を信じ、支援する営み」であり、目の前にいる人を大切にするという点では共通しているのではないかと考えているところです。

今後、「経験知」や「実践知」を大切にしながら、相談活動や教育・研究に精一杯取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



◆ 芸術・健康系教育部（生活・健康系コース（保健体育）） 准教授 ^ゆ湯 ^{ぐち}口 ^{まさ}雅 ^{ふみ}史

このたび、ご縁があり本学に赴任して参りました。

昨年度までは、徳島県の小学校教諭として26年間勤務しておりました。教諭時代は、1年生から6年生まで担任をさせていただき、子どもの成長への驚きと、一緒に生活する喜びを味わってきました。本学では主に、実地教育分野を担当します。教職をめざしている学生にとって、教育現場への入口を提供する場をいた

だきました。たくましく、学び続ける教師が本学から巣立つよう、内容、環境をこれまでの経験知を生かしながら研究していきたいと思っております。教師という職は、子どもからエネルギーをもらいながら一緒に成長できる、やりがいのある職です。相談事がありましたら、研究室に尋ねてください。

ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



◆ 芸術・健康系教育部（芸術系コース（美術）） 准教授 ^{くり} 栗 ^{はら} 原 ^{けい} 慶

今年度4月より、芸術系コース（美術）の工芸担当教員に着任致しました栗原慶と申します。愛媛、広島で育ちましたが、大学から上京しその後約20年、関東で過ごしてきました。専門は陶芸で、東京芸術大や埼玉大等に勤務し、日本伝統工芸展などに作品出品をして参りました。鳴門は自然に恵まれ食や伝統文化も豊か

で、とても創造意欲を刺激してくれる環境だと感じております。「工芸」は日常生活に必要な器物から芸術作品まで、多様な表現方法・アプローチの仕方がありますが、人生を豊かに、心を豊かにという目的は変わりません。教育・研究において一層精進し、本学に貢献できるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



◆ 人文・社会系教育部（言語系コース（英語）） 准教授 ^{はた} 畑 ^え 江 ^み 美 ^か 佳

このたびご縁があって本学の言語系コース（英語）に着任いたしました、畑江美佳と申します。生まれは関東ですが、実家が秋田、前任校は山形、と極寒の地が長かったので、雪かきの必要ない冬を過ごせるのは夢のようです。専門は小学校英語教育です。平成23年度の外国語活動必修化に伴い、小学校教員にも英語教育に

関する基礎理論と授業実践力が求められるようになりました。また、英語における小・中連携も重要な課題となっております。20数年間、児童英語教育の実践と研究に携わってきた者として、今こそこの経験を生かして、本学における教員養成及び地域の小・中学校への助言・支援に尽力したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



◆ 自然・生活系教育部（自然系コース（理科）） 講師 ^{てら} 寺 ^{しま} 島 ^{ゆき} 幸 ^お 生

4月から自然系コース（理科）の物理学および理科教育担当教員として着任しました寺島幸生です。大学卒業後、愛媛県公立高校教員として2年間勤務し、その後昨年度末まで徳島県公立高校教員として8年間勤務していました。また、3年前に本学大学院修士課程を修了し、今年3月に兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程を修了しました。

大学院の頃から現在まで、溶液の物理的性質について実験的に研究を進めるとともに、教育現場に導入可能な物理実験教材の開発に取り組んでいます。今後、先輩の教職員の方々や学生・院生の皆さんとともに、大学の教育・研究活動の発展に貢献できるよう努力したいと思います。よろしくお願い致します。

ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



◆ 基礎・臨床系教育部（教員養成特別コース）講師 ^え江 ^{がわ}川 ^{かつ}克 ^{ひろ}弘

4月から教職大学院教員養成特別コースに着任致しました、江川克弘と申します。昨年度まで大阪府・市の公立小学校に18年間勤務しておりました。小学校に勤務しながら大学院で研究も行っておりました。研究のテーマは、教授学習心理学をベースに、主に学習の苦手な児童の学習に対するモチベーションを高め、学力も

向上させることのできる指導方法についてです。教育現場をお借りして実践的な研究を行っております。

これまでの教育現場での経験と実践的な研究の成果を生かし、志を持った実践力のある教員を育成するサポートができたらと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



◆ 経営企画本部企画総務課 企画総務課長 ^し地 ^{ぞう}藏 ^{どう}堂 ^{さとし}聡

4月から経営企画本部企画総務課長として着任致しました地藏堂と申します。課長登用で大学に採用されて以来、初の広島を離れること、初の転出先が新居浜高専となり初の単身赴任、大学と高専の環境も立場も変わり意気込むものの、不安な気持ちで4年半前に着任したことを思い出しました。鳴門教育大学での印象は、

高専と大学とでは取り組み・改革等スピード感が違うんだなと感じており、一日も早く慣れ親しみ学校運営に参画しなくてはと思っています。ただ、企画総務課の業務内容は、想像した以上に重要な部署であり、企画、情報収集、学内外の調整など多岐に渡り幅広いことから、ご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますが、精一杯勤めて参りますので、よろしくお願い致します。



◆ 経営企画本部財務課 財務課長 ^{あか}赤 ^{ざわ}澤 ^{まさ}正 ^と人

この4月に経営企画本部財務課長に採用されました赤澤です。よろしくお願い致します。前任は岡山大学で経理課長を3年間務めていました。出身は香川ですが、島根、広島、岡山と8年間、四国を離れていたため、久しぶりに四国の地を踏めて嬉しく思っています。

う印象を持って着任しました。このようなイメージというのは、社会から大学を見る時に非常に重要な要素の一つだと、私自身は思っています。大学を取り巻く財政状況は年々厳しさを増していますが、教育環境の充実に少しでも貢献できるように微力ですが精一杯努力していきたいと思っています。

鳴門教育大学と言えば、2年連続で教員就職率全国第1位という輝かしい実績を持った大学とい

もうすぐ 大学祭

一つになると、あ29（熱く）なる！

ほなけん、祭りが好きなんじょ！

◆ 第29回鳴潮祭（大学祭）実行委員会委員長 古家研人

今年、11月16日～18日の3日間をかけて開催される第29回鳴潮祭。このたび、鳴潮祭実行委員会委員長を務めさせていただくことになりました古家研人です。今年のテーマは…



に決定しました。

このテーマは、鳴潮祭及び日本三大盆踊りとして名高い阿波踊りの魂を受け継ぐ鳴門教育大学生が一つにまとまれば、きっと力強いエネルギーを発揮するに違いないという期待から「あ29（熱く）なる」という言葉をつくり、鳴潮祭がより活気溢れる祭りになるようにという願いを込め、ダイレクトに皆さんに思いが伝わるような簡潔なテーマにしました。

今年はオリンピックイヤーということで日本中が日本代表選手の情熱が伝わる演技やプレーを応

援し、今日でも興奮がおさまらない中、私たち実行委員会もオリンピックにも負けない、皆さんの思い出に残る鳴潮祭とするべく、いろんな壁にぶつかりながらも、実行委員を経験した先輩方に支えられながら日々、努力しています。

活動の内容としては、企画・立案や食品を扱う模擬店に対する衛生上の指導、広報活動など様々な活動をしております。

ではここで、今年度の鳴潮祭実行委員会委員を紹介したいと思います！



もうすぐ 大学祭

第29回鳴潮祭実行委員会委員



この個性豊かなメンバーで開催される大学祭。初めての大学祭を経験する1年生にとっては、毎年恒例の「かくし芸」など学科単位で企画に参加することが、よりいっそう学科内の親睦を深める機会となるのではないかと思います。学部2年生は模擬店出店のために、一致協力して準備を進めています。また、鳴教生全学年が参加可能な「N-1」というイベントを企画するなど、学部1年生2年生だけでなく、鳴教生全体で盛り上げる鳴潮祭になるよう努めています。

こうした鳴教生全体が主体となった大学祭はテーマのとおり、情熱溢れるものとなるでしょう！

最後となりましたが、私たちがこのような活動が行えるのも、鳴門教育大学同窓会、後援会の皆様の温かいご援助をはじめ、今回スポンサーとしてご協力していただいた多くの企業の皆様のご理解があつてのことであることを胸に刻み、鳴潮祭開催に向けて努力していきたいと思っています。

<学部・中学校数学 2年>

「第29回鳴潮祭ホームページ

<http://www.naruto-u.ac.jp/event/gakusai/> も見てね！」



熱戦！第63回四国地区大学総合体育大会

第63回四国インカレが、高知大学を主管大学として高知県内各会場で開催されました。

本学からは14種目に17団体総勢207人（男子149人、女子58人）の選手団、その他関係者が参加し、熱い戦いを繰り広げました。

< 成 績 >

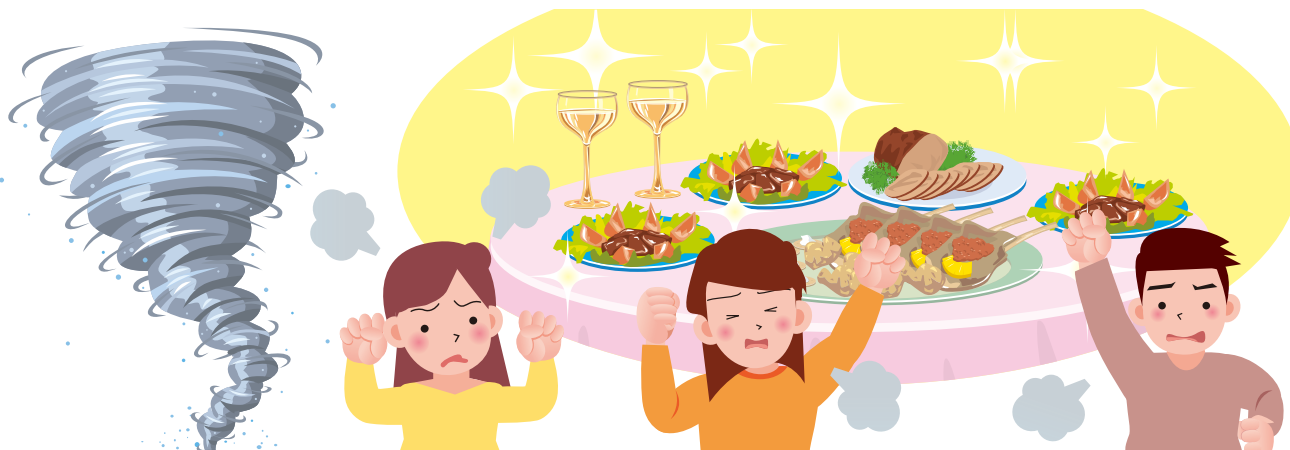
総 合 男子8位（前回9位）、女子10位（前回9位）

種目別（3位以上） ラグビー 準優勝
ハンドボール（女子） 第3位
陸上競技 第3位

個人等（3位以上）【弓道】 高橋 徹 男子個人 第2位
【陸上】 川西 徹 男子棒高跳 第3位
伊藤 希望 女子100m走 第1位 女子200m走 第2位
女子走幅跳 第2位 女子400mリレー 第2位
林 亜佑美 女子100m障害 第2位 女子走高跳 第2位
近藤 瑞希 女子100m障害 第3位 女子400mリレー 第2位
廣田愛実里 走高跳 第1位 女子400mリレー 第2位
中瀬 晴香 女子400mリレー 第2位
【水泳】 福良祐香子 女子50mバタフライ 第1位
女子100mバタフライ 第2位
小井 恵理 女子200m個人メドレー 第1位

< 結団式・壮行会 >

6月19日（火）に結団式及び壮行会を例年どおり行う予定でしたが、残念ながら、台風4号、続いて台風5号の接近のため、結団式・壮行会は中止となってしまいました。



熱戦！第63回四国地区大学総合体育大会

< 競技開始 >

いよいよ試合。勝っても負けても全力を尽くせ！
笑顔も涙も、明日につながる糧となる。



ファイト!



熱戦！第63回四国地区大学総合体育大会



熱戦！第63回四国地区大学総合体育大会



課外活動 サークル紹介

天文同好会とは…

私達、天文同好会は、今年発足したばかりの新しい同好会ですが、メンバー仲良くワイワイとした雰囲気の中、楽しく活動しています。

ところで皆さん、今年2012年にどんな天文現象があったかご存知ですか？例えば、記憶に新しいと思いますが5月21日には金環日食がありました。この時、部員は朝の6時台から集まり、日食眼鏡を持参したうえで観察をしました。また6月6日には金星の太陽面通過があり、これは日本で130年ぶりに見られたものでした。私達の天文同好会が発足した年にこのような現象が多々見られた事は本当に幸運であったと思います。

その他の活動としては、季節ごとの星座の観測や、



◆ 天文同好会 伊賀 健太郎

ペルセウス座流星群、月と木星の大接近等を観察しています。私達、天文同好会はこのように主に観察を重視した活動が多いため、他の部活動をしている方でも掛け持ちで活動ができるかと思いません。ストレス解消がてら、一緒に星を眺めてみませんか？そして、その中で部員同士、天文についての知識を高めあっていきましょう！

少しでも天文に興味がある方！天文同好会はあなたの入部を待っています！

<学部・小学校学校教育 3年>



現代リズム

僕達ストリートダンス部は今年8月1日付けでダンスサークルから部に昇格しました。「サークル」ではなく「部」としたかったのは、先輩方が立ち上げ、築き上げてきた“ダンスが出来る場所”を今後も残していきたいと思ったからです。僕自身、ダンスを始めるきっかけがダンスサークルにあったように、これから先、後輩が「ダンスをしてみたい」と思うきっかけになればと思い、日々活動を続けています。

現在では部員数は20人を越え、学内だけでなく他大学の人達と交流を交えながら練習に取り組んでいます。一時期、「練習が厳しすぎる」という意見が出るほど練習した時期もありましたが、今は各人の自主性を重んじた練習メニューにしています。初めての方については、半年ほど自主練習も含め練習を続けてくれれば、基本的なレベル

◆ ストリートダンス部 新居 郁弥

には到達できるのではないかと考えています。

先日、「現代的なリズムのダンス」が必修化したことにともない、学校現場で苦勞している教師の方々の姿がテレビで取り上げられていましたが、そこには「現代的なリズムのダンス」を知らないが故に、間違った手順を踏んでいる姿が映し出されていました。

教員採用試験に合格してから慌てて無理矢理ダンスを学ぶくらいなら、今から片手間にでも楽しくダンスを始めてみてはいかがでしょうか？是非一度、気軽にダンス部までお越しください。

<学部・小学校算数 3年>



課外活動 News

第28回全国教育系大学弓道選手権大会において

鳴門教育大学弓道部優勝！

8月11、12日に愛知教育大学で行われた第28回全国教育系大学弓道選手権大会において、本学弓道部が男子の部で見事優勝しました。

大会期間中は突然の雷雨や、うだるような暑さに精神の集中を乱されながらも、的確に的を射貫

き、ポイントを重ねました。

残念ながら表彰台にはとどきませんでしたでしたが、女子も健闘しました。次回は揃って優勝できるよう、がんばってください！



「ダンスサークル」が「ストリートダンス部」に昇格！

設立から3年近くの地道な活動が認められ、「ダンスサークル」の「ストリートダンス部」への昇格が認められました。

昨年は、フジグラン北島で行われた大学祭PRイベントにおいてそのダンスを披露し、鳴潮祭のPRに貢献するなど、大学関連の行事にも積極的に参加してくれました。

「現代的なリズムのダンス」が義務教育課程で必修化し、追い風がビュービュー(?)吹いているこのタイミングを生かして、ますます活躍の場を広げていくことを期待します。



≡ 学生会・院生会だより



こんなことしてます，学生会

こんにちは。学生会会長の矢出です。平素は学生会の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。学生会の活動といってもピンとこない方が多いのではないのでしょうか？この場をお借りして、少し活動を紹介させていただこうかと思えます。

学生会では、学生の皆様が快適に勉学に励めるようにとイベントを企画運営しています。

例えば、今年は7月18日に「納涼かき氷大会」を開催しました。2日間行う予定でしたが、悪天候のため、1日のみの開催となりました。このイベントには多くの学部生、院生、教員の方々が来てくださいました。また、児童図書館に来ていた子供達にもかき氷を配ると、大喜びで食べてくれました。

他にも、地域の小学校との交流を行っています。8月4、5日の2日間、鳴門市にある北灘西小学校

◆ 学生会会長 矢出 佳菜絵

で行われたサマースクールに行ってきました。15名ほどの子供達と一緒に体育館やプールで遊んだり、お昼ご飯を作って食べたりしました。サマースクールを通じて、近隣の小学校との交流を図ると同時に、私達学生にとっては子供達と直接関わるとても良い機会となりました。

このように学生会では、様々な活動を行っていますので、今後とも、よろしく願いいたします。

<学部・小学校国語 3年>



どうも，院生会の会長です。

みなさん、こんにちは。この度は学園だよりの記事に掲載させていただけることになり、本来的には院生会活動紹介の記事を書くべきかとは思いますが、少々個人的な視点からこの半年の院生会の活動を振り返ってお話をさせていただこうかと思えます。

私は、この春に鳴門教育大学大学院に入学し、「肩書きだけの会長」として、今日までなんとか務めさせていただいております。まだ、何か会長らしいことをしたわけではありませんし、誰かの力になれたという実感もありません。では、なぜそれでも院生会会長として、今日までやって来られたのでしょうか？

それは、友人や仲間に恵まれたからです。私は、前述したとおり何の力も持っておりません。強いて言っても、せいぜい原稿に独り言を書くくらい力しかありません。そんな私が、今日まで院生

◆ 院生会会長 村井 庸 佑

会の行事をこなせたのは、友人や院生会の仲間が居てくれたからです。確かに、ときには衝突することもあります。彼らが居なければ院生会の運営は立ち行かなかったと思います。友人の大切さや協力してくれる仲間の有り難さというものこの歳になって改めて感じるのは少々気恥ずかしくはありますが、この記事を読んでくださった皆さんがこれを機に、改めて友人や仲間について考えていただく機会になれば幸いです。

残り半年、院生会会長として友人や仲間と協力して院生会を運営していきたいと思っております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

<院 言語系コース (国語) 1年>



鳴門教育大学の大学開放推進事業

子どもたちに楽しい美術鑑賞活動を！

～大学開放推進事業N＊CAPの取組紹介～

◆ 芸術・健康系教育部 准教授 山田 芳明

地域開放、地域連携という視点から、主として子ども達向けの体験活動を提供している大学推進事業ですが、そのひとつの活動であるN＊CAPは、今年で活動開始から9年目を迎えています。

N＊CAPはNaruto Children's Art Parkの略称なのですが、その名前には「鳴門の地が子どもたちの美術との遊び場となるように」という願いを込めています。N＊CAPは大学だけではなく、鳴門市子どもいきいき課や大塚国際美術館と連携して取り組んでいる活動です。主な活動は、大塚国際美術館での美術鑑賞活動の実施と、鳴門市子どものまちづくり推進協議会主催の子どものまちフェスティバル（以下、子まちフェス）での体験活動の提供です。

大塚国際美術館での美術鑑賞活動は毎年4回行っています。大塚国際美術館は西洋名画の陶板による複製が千点余り展示されている他、シスターナ礼拝堂やスクロベーニ礼拝堂などの天井画を複製した環境展示が行われており、子ども達が美術に親しむ施設として最適です。



その大塚国際美術館をフィールドとした鑑賞活動では、単に展示された美術作品の内容を紹介するというのではなく、美術作品にちなんだ工作の活動を行ったり、オリエンテーリングのように地図を片手に美術館の中を歩きながら、キーワードを解いて回ったりするなど、毎回子どもたちが美術作品に親しみを持ってかかわれるように活動を工夫しています。

現在こうした鑑賞活動の内容は、ボランティアで参加してくれている本学の学部生や大学院生ら学生スタッフを中心となって美術館のスタッフと協力してつくっています。

また、子まちフェスでは簡単につくって遊べる工作活動などを紹介し、子どもたちと一緒につくって遊ぶ活動を毎年行っています。これらの活動内容も、学生スタッフが考案してくれています。

鳴門市や、大塚国際美術館、そして本学学生スタッフの努力の甲斐あってか、N＊CAPの活動は、近年は募集定員(40名)を超える申込がありリピーターの子どもたちもたくさんいます。



今後も、鳴門市や大塚国際美術館と連携し、学生スタッフの活躍してくれることで、子どもたちに楽しい美術鑑賞活動が提供できればと考えています。関心のある方は、是非一度、活動をご参観下さい。学生に限らず一緒に活動して下さいの方大歓迎です。



welcome!

就職支援室

学生のみなさん、就職支援室を知っていますか。名前のおり、みなさんの就職活動を支援するところです。どう活かすかはあなた次第！とりあえず入ってみませんか。

☆利用時間

8時30分～18時30分（ただし、8月と9月は17時15分まで）

☆アドバイザーによる個別相談

就職支援室では、公立学校の校長経験を有するアドバイザーが、就職や進路相談、論文指導、個別面接指導などを行っていますので、気軽に相談してください。

岩佐先生（教員就職支援チーフアドバイザー）月～金（8：30～17：15）

坂東先生（大学院生就職支援アドバイザー）月、水、木（10：15～17：15）

向川先生（大学院生就職支援アドバイザー）火、水、金（10：15～17：15）

★各種ガイダンス

○ 就職ガイダンス

学外の専門講師を招いて、就活対策ガイダンス、企業ガイダンス、公務員ガイダンスを実施しています。

○ 教員採用試験対策ガイダンス

このガイダンスは、教員就職支援チーフアドバイザーが教員採用試験対策について指導します。学年や時期に応じて体系的に学習します。

準備編7月（1回） 基礎編11月～2月（11回） 論作文編11月～1月（2回）

実践編4月～6月（10回） 直前編（受験希望者の多い都道府県）6月～7月（4回）

○ 教員採用試験実技ガイダンス

教員採用試験で実施される模擬授業・個人面接、集団討論、実技試験（音楽・美術・体育）に対応するためのガイダンスです。

○ 教員採用試験二次対策ガイダンス

教員採用試験一次合格者のうち二次試験受験者を対象に行います。

※日程等の詳細は、就職支援室南側壁面の掲示板、または本学WEBページで確認できます。



教員採用試験対策ガイダンスの様子



模擬授業・個人面接の様子

Welcome!

就職支援室

一人一人の思いに応えたい

◆ 大学院生就職支援アドバイザー 向川 守

就職支援室では、就職委員会や長期履修学生支援センターの先生方とも連携しながら、学生の皆さんが適切に進路を選択し、合格できるよう努めています。

多数の人たちは教職をめざしていますが、支援の内容は様々です。一人一人と向き合って話をする中で、「進路に関する迷い」や「採用試験の準備に関する不安」、「どうしても合格したいという熱い思い」などを直に感じると、なんとしても要望に応えたいという気持ちが湧いてきます。皆さんの迷いや不安を払拭し、希望が実現できるよう全力で後押ししたいと思います。

入りやすく、相談しやすい部屋をめざしていま

すので、一人でも多くの方が支援室を利用してくれるよう期待しています。ぜひ足を運んでみてください。



お話しませんか

◆ 大学院生就職支援アドバイザー 坂東 雅子

就職支援室は、大学生・大学院生がひっきりなしに来室し、受験対策や情報収集や情報交換と、とても賑やかで活気に満ちています。論作文や自

己アピール文の添削、提出書類の検討等を通して学生のみなさんの頑張りを肌で感じ、とてもうれしく思っています。

私は、4月から院生のアドバイザーとして、就職支援室の一員となり、若くて活気あふれる学生のみなさんの就活の支援ができる喜びとその責任を感じながらの日々を過ごしています。微力ですが、今までの経験をもとに、いろいろと新しいことを学びながら、学生・院生の皆さんの要望に応えうる支援ができるよう頑張りたいと思います。みなさん気軽に来室して、いろいろなことを話してみませんか。



幼稚園

言葉に込められた思いを読み解くことの楽しみ
～幼児理解にはじまる保育研究～

◆ 附属幼稚園 杉山 健人



内科検診が終わった後のことです。幼児たちはお手製の聴診器を身につけ、お医者さんごっこをしています。「先生、みてあげる」と一人の幼児が言います。私は「お願いします」とイスに座りました。幼児は先程診てもらった医者になりきり、お腹のいろんな場所に聴診器をあてます。その後幼児は、「ちょっとまってくださいね」と紙に何かを書き、「はい、終わりました」と私にその紙を渡してくれました。その紙には“とくとく”と書いてあります。私が「これはどういう意味ですか?」と聞くと、幼児は「心臓がとくとくと鳴っています。だから元気です。」と説明してくれました。

始めにこの“とくとく”という言葉を見たとき、「一

体何のことだろう?」と驚きました。幼児は、安心させて勇気づけたいという思いや「あなたは元気ですよ」というメッセージを込めて“とくとく”と書いて私に渡してくれたのだと思います。また、この“とくとく”という素朴な表現の中には、人の体内には心臓を中心に温かい血液が流され、一種の生命の仕組みのようなものを感じさせられるものがあったのではないのでしょうか。“とくとく”というたった四文字で表された言葉に込められた幼児の大きな思いに、感動しました。



小学校

親子で学ぶ交通安全教室

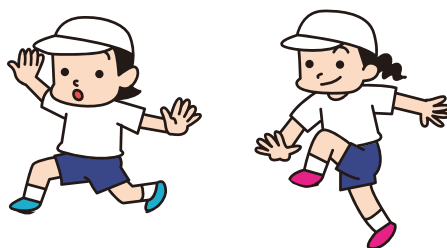
◆ 附属小学校 二川 満賀

本校では、例年1年生を対象とした交通安全教室を開催しています。これは、はぐくみ保護者会安全委員会が中心となって、子どもたちの現状や交通事情を踏まえ、より実践的な効果を挙げるために実施しています。



本年も、4月に約70名の新入生保護者が子どもたちと一緒に学校から徳島公園まで実際に歩き、現状に即した指導をしていただきました。当日は、徳島市・市民生活課の吉枝様、徳島市東警察署交通課の田中様を講師にお迎えし、交通安全のポイントについても、わかりやすく教えていただきました。

「自分の命は自分で守る」交通安全教室で学んだことをもとに、新入生保護者が、交通安全に対する認識を子どもたちと共に高めていくよい機会になることを願っています。



中学校

21世紀の技術者たち

◆ 附属中学校 谷 陽子

「こんにちは!」放課後の技術室を覗くと、40名ほどの生徒が大きな声であいさつをする。みんなそれぞれに工具を持ち、楽しそうに作品を作っている。これが、県内でも数校しかない「技術部」の活動の様子である。



「今の子どもたちは、多くのモノに囲まれていて、自分で何か作ろうとしない」と世間では言われるが、ここでは、ものづくりに懸命に取り組む姿を見ることが出来る。部員たちは、のこぎりびきやかんなげずりなどの技能を磨いたり、はんだづけをして電子部品を組み立てたり、ロボットを作ったりする。技術部が参加できる大会も多く、木材加工の精度を競う大会やコンピュータを使ってロボットを制御する大会、有線

ロボットを製作し競い合う大会がある。在校生は、先輩たちが築いてきた伝統を守ろうと、これらの大会に向けて必死に取り組んでいる。

東日本大震災の折には、手回し発電機付きラジオを組み立てて被災地に送り届けた。自分たちの身に付けた技術で、社会に貢献できたことを嬉しく思い、将来、日本の科学技術を支えていく人になりたいと考える生徒が増えてきた。自分だけでなく人のために役立つ技術を習得したいと高い志を持ち、技術部員は今日も技術室に集まってくる。



特別支援学校

小学部の修学旅行

◆ 附属特別支援学校 山崎 仁寛

平成24年度は2年ぶりの修学旅行があり、5年生と6年生の児童が参加しました。今年度の修学旅行の目的は大きく3つありました。「友だちや教職員と一緒に旅行する楽しさを味わう。」「公共宿泊施設利用の経験をやる。」「目的地の様子に関心をもつ。」の3つです。これらの目的を達成するために今回の旅程がありました。



今回の修学旅行での大きなテーマは公共機関の利用です。目的地への移動は

高速バスやJR、市バスを利用し、宿泊施設や見学場所についても同様に公共施設としました。この日のために、校外学習で公共機関の利用の練習を重ねてきました。路線バスに乗車したり乗車料金の支払いをしたり、また大きな荷物を背負っての校外歩行もしてきました。

そして本番の修学旅行では、日々の学習の成果を十分に発揮することができました。子どもたち自ら荷物を持ち、教員と一緒に歩き、様々な乗り物に乗り、楽しんで旅行を終えることができました。

今回の修学旅行、時にはハプニングもありましたが、子どもたちにとって大きな学びの機会となったように思います。この修学旅行の経験を活かして今後の子どもの更なる成長を期待します。



育ちゆく中日教師教育学術研究交流 —第5回中日教師教育学術研究集会参加記—

◆ 第5回中日教師教育学術研究集会準備委員会委員長 梅津正美

大学間交流協定校である北京師範大学と本学の共催による第5回中日教師教育学術研究集会は、2012年9月15日、16日の両日、北京師範大学英東学術ホールを会場に開催された。大会には、実数で100名を超える参加者があり、日本からは9大学42名



基調講演する田中雄三学長

が参加した。本集会は、「教師教育の質と基準」をテーマに、中国及び日本の教育現場に活かすことのできる教師教育システムの構築について、今大会が初となるシンポジウムや課題研究、分科会を通じて具体的な改革案を提案していくことを大きな目標にして展開された。そのプログラム内容は、以下のとおりである。

○基調提案：

首都師範大学 孟繁華教授
「中国における教員養成の現状と展望」
鳴門教育大学 田中雄三学長
「日本における教員養成改革の現状と課題」

○シンポジウム：

(第1提案)
北京師範大学教師教育研究センター
朱旭東センター長
「中国における教師教育新システムの6つの特徴」
(第2提案)
鳴門教育大学 西園芳信理事
「鳴門教育大学教員養成コア・カリキュラムの成果と課題」
(指定討論)
鳴門教育大学 山下一夫理事
北京師範大学教師教育研究センター

宋萑講師

○課題研究：現代教師教育システムの構築

○テーマ別分科会

- ①教師教育の目標と価値
- ②教師教育カリキュラムと授業の改善
- ③教師教育の授業実践
- ④教師教育の歴史比較と政策研究
- ⑤教師教育における教師の資質能力育成

※分科会では、日本側からは23件の発表があった。

○大会総括：朱旭東センター長



シンポジウムでの山下理事の指定討論

筆者は、幸いにも第1回（2004年9月・北京師範大学）から第5回に至るすべての研究集会に参加する機会を得ているが、本集会に対する率直な感想を述べれば、「中日の教師教育学術研究交流は、互いの信頼と理解を基盤に、着実に育ってきている」ということである。そうした感想につながる本集会の特徴と成果を、筆者なりに3点にまとめて述べたい。第1に、本集会において、目標をふまえたプログラム内容の体系化と実質化が一層進展したことである。プログラム全体を通じて、教師教育をめぐる課題に対する解決策が具体的に提案され議論されるようになってきた。例えば、中国側の基調提案（孟教授）において、「都市部と農村部の教育格差」の課題が指摘されたことを

国際交流



受けて、シンポジウムにおける朱所長の提案では、「農村部における教育施策と教師教育改革」について論じられるという具合に、課題と改革提案の結びつきが明確になったことで、中日両国間の議論がかみ合うようになり、実質的な討論ができるようになってきた。第2には、中日両国の教師教育をめぐる問題関心と研究内容・方法の相違点を浮き彫りにできたことである。シンポジウムや大会総括を通して、中国側が教師の資格と教師教育制度あるいは教師教育の質を評価する国家基準の策定といったマクロな政策・制度研究に中心的な関心があるのに対し、日本側は教師教育の質保証のためのカリキュラム・授業・教員研修改革という、いわばミクロな教師教育改革研究に力点を置いている傾向性が明確にされた。中日両国の研究視角の異同をふまえ、互いの研究成果を学び合おうとする意識と態度が醸成されてきたことは意義深いことであった。第3には、日本からの多数の現職教員（修士課程・専門職学位課程院生）の参加と研究発表が契機となって、教育現場のニーズに合致した成果の発信をめざして現職教員の参加

と発表を拡充していく、という本研究集会の方向性を中国側と共有できたことである。



石中英教育学部長（左から3番目）を囲んで

本学の田中雄三学長、北京師範大学の石中英教育学部長のリーダーシップのもと、大会期間中の協議により、第6回研究集会を2015年11月（予定）に鳴門教育大学で開催することが決定された。中日教師教育学術研究交流が、これまでに蓄積してきた研究成果と友好的な人間関係を基盤に、グローバル時代の教師教育研究の推進のために先導的な役割を果たすべく、今後益々発展していくことを念願するものである。





From initial culture shock to intercultural collaboration

カルチャーショックから異文化コラボレーションへ

◆ 外国人客員研究員 SARJA Anneli (フィンランド)

I worked at Naruto University of Education as a visiting professor for a half-year period starting from January. The invitation was offered by President Tanaka and arranged by Professor Ito from the Department of English Language Education. I would like to thank all the university people, from the President of the university, to the single student who helped me a lot - to make my stay in Naruto as comfortable as possible.

The first few days in Naruto were quite challenging. For a foreigner used to multicultural European cities, it was exciting to realise that I was nearly the only Western person in the city. I soon experienced culture shock. It was difficult to be understood outside the university using English. A language barrier complicated my visits in some public bureaus, whereas the bureaucracy at the university was expertly managed. That's why the ordinary practices like the apartment's different arrangements (warming, gas, water, TV-licence etc.), 'alien registration card', opening a bank account, doing business in the post office, reserving tickets, getting a mobile phone, calling a taxi and reading different newsletters were complicated issues for me. I don't understand why the English language disappears in Japan, even though they study it more at school than in Finland. Without the help of the university multi-lingual personnel and the students, I would have been lost.

The idea of my professorship was to contribute to the collaboration of research and culture between Japan and Finland. It happened in three ways:

1. I'm going to write two joint articles that concern '*Foreign language teachers' pre-service and in-service education in Finland*'. Moreover, we will compare pedagogical teacher education and the pedagogical practices of school teaching in both countries. I observed English lessons in schools and interviewed professors, teachers and students at the university and in schools. There are many more pupils in class in Japan than in Finland, and maybe that's the reason why the teaching here is more teacher-centered. On the other hand, it seemed to me that because of the small number of students, university students have more possibilities to personal supervision than in our universities in Finland.
2. I gave presentations to the university staff and students concerning latest findings in teacher education and its paradigms in Finland. It was a pleasure to realise that the audience was really responsive and interactive. Maybe, I should have been better prepared to explain the grounds for those Finnish

practices differing from Japanese ones. For those interested in finding more knowledge about 'Teacher education curricula in the EU' I recommend to visit the web pages of the Finnish Institute for Educational Research (<http://ktl.jyu.fi/ktl/english/publications>).

3. Some of the best experiences I had were in extending Japanese-Finnish friendships and partner networks at a grass roots level. It was reasonably easy because Japanese people are very polite, kind and hospitable. With many interviewees I made a preliminary contact for culture, study or school visits to Finland. Teacher education, northern lights, Moomins, thousand lakes and Finnish lifestyle as such are temptations.

In connection with our business trips I had some heart-warming cultural sensations, like a day in Tokyo where we visited skyscrapers and were stuck in the crush in subways. Relaxing was walking in simplified Japanese stone gardens or sensing the traditional atmosphere in the temples. An exceptional experience was the strong earthquake felt in the safe lecture room of Meikai University. After that, all the information found on TV or through my mobile's Tsunami Alarm awakened my curiosity. Finally, my colleagues in Finland got the real impression of the beauty of Hanami through my pictures, at Mt. Bizan in Tokushima. Having dinner in a restaurant is reasonable cheap in Japan. Nearly every week we had a joint dinner in a restaurant specialised in some particular courses. Sitting together around a table with the natives made me feel like an insider.

I also had pleasure to take part in a barbecue at the university. Apart from the students' skillful music performances, we were delighted with the Awa Odori dancer - also a student. It was great to dance together under the guidance of this professional. All the encounters with Japanese people - a joint visit to a kimono atelier, to lookout spots, temples, onsens and museums, tea ceremonies and ikebana practices - left an indelible impression on me. With my charming partners I experienced real expressions of Japanese kindness. With some of the student teachers I had interesting discussions in my office. We visited some sightseeing places together too.

A half a year is a short time for a Finn to learn to understand the fascinating Japanese culture. If I could relive that period in Naruto I'd study more Japanese, buy a used car, and bravely enjoy those sea shellfish and gastropods which I skipped at the lovely farewell dinner. O sewa ni narimashita!

Let's keep in touch! (anneli.sarja@jyu.fi)

国際交流



私は、外国人客員研究員として鳴門教育大学から招待され、英語コースの伊東治己教授の元で1月から半年間勤務しました。鳴門での滞在生活を可能な限り快適にさせていただいた学長先生を始め、私の手伝いをしてくれた学生達、そして大学の職員の方々に感謝します。

鳴門での最初の数日間の生活は非常に困難でした。多文化であるヨーロッパの街に慣れている私にとって、この鳴門では自分がほぼ唯一の西洋人であると知った時は非常に刺激的でした。大学外では英語を話しても理解してもらえないというカルチャーショックをすぐさま経験しました。大学内では大丈夫でも、公共の施設では言葉の壁が私の生活を困難にしました。アパートの手配、市役所や銀行や郵便局での手続き、チケットの予約、タクシーの手配、ニュースレターを読むといった一般的な事でさえも私にとっては大きな問題でした。日本はフィンランドよりも多く学校で英語を学習しているにもかかわらず、なぜ日本で英語が通じないのでしょうか。不思議でなりません。多言語を話す大学のスタッフと学生の助けがなければ、私は途方に暮れていたでしょう。

今回の私の客員研究員としての目的は、日本とフィンランドの間での研究面及び文化面での協力に貢献することでした。具体的には次の3点です。

1. 「フィンランドの外国語教師の養成および現職教育」に関連した論文（共著）を2つ書くつもりです。また、両国の教員養成と学校教育の教育実践を比較しようと思い、英語の授業を見学し、現職教員や大学の学生にインタビューをしました。日本の教室ではフィンランドよりも多くの生徒が授業を受けています。これが日本の授業が教師メインになってしまっている原因だと思いました。それとは逆に大学は少人数で、フィンランドの大学と比べると教授との交流を持てる機会が多いように思えました。

2. フィンランドの教員養成とそのモデルの最新研究成果について、大学職員と学生にプレゼンを行いました。両国の習慣の違いを説明できるよう、もっと準備するべきだったかもしれませんが、皆さんにはとてもインタラクティブに反応してもらい嬉しく思いました。教師教育カリキュラムについてより多くの知識に興味がある方はFinnish

Institute for Educational Research (<http://ktl.jyu.fi/ktl/English/publications>) のウェブサイトをご覧ください。

3. 私の最高の体験は、草の根レベルで日本とフィンランドの友情を築き、個人的なネットワークを広げることができたことです。日本人はとても礼儀正しく、親切で歓待の精神を持っているので、仲良くなり易いと思います。たくさんの方とフィンランドの文化、研究、そして学校訪問の約束をしました。フィンランドには、オーロラ、ムーミン、多くの湖、そして日本とは違う教育や生活様式は日本の皆様にとっても魅力的だと思います。

それから仕事で東京を訪れた際には、心温まる文化的な感覚を味わいました。シンプルな日本石庭園を散策し、お寺で伝統的な雰囲気を感じたりしました。明海大学の講義室で感じた強い地震は滅多にできない体験だったと思います。直後にテレビや携帯に入って来た津波警報の情報は、私の好奇心をかき立てました。フィンランドにいる私の同僚は、眉山の美しい花見の写真を見て、本当に感動していました。レストランの夕食はお手頃で、私たちはほぼ毎週、専門のレストランで地域特有の料理を友人と一緒に食べました。日本人と一緒にテーブルを囲んで座っていると、自分も地元の人のように感じることができました。

また、大学でのバーベキューは楽しかったです。学生の上質な音楽演奏のほかに、阿波おどりに感動しました。プロの指導の下で一緒に踊ることができ、本当に素晴らしかったです。着物スタジオ・お寺・温泉・博物館・茶道と華道での日本の方との出会いは全て忘れられない印象を残しました。素晴らしい友人とともに、日本人の真の親切心を感じました。教育実習生の人たちと私のオフィスで興味深い議論を交わし、彼らと一緒に観光地も訪れました。

半年という期間でこの魅力的な日本の文化を理解するには、フィンランド人には短すぎます。もし鳴門にもう一度滞在できるなら、日本語を勉強し、中古車の購入をして、送迎会で食べることのできなかった巻き貝などにも勇気を出して挑戦してみたいです。

O sewa ni narimashita!



留学体験記 -アメリカ ウェスタンカロライナ大学留学報告-

◆ 学校教育研究科 寺本 達 矢



私はノースカロライナ州のウェスタンカロライナ大学に留学させていただきました。大学周辺は自然がものすごく豊かで、一歩大学を出ると街灯はほとんどなく、高島内よりも星がはっきりと綺麗に見ることもできます。こういった環境の影響もあってか学生も地域の方々もとても温かく、留学中あらゆる場面で優しくしていただきました。

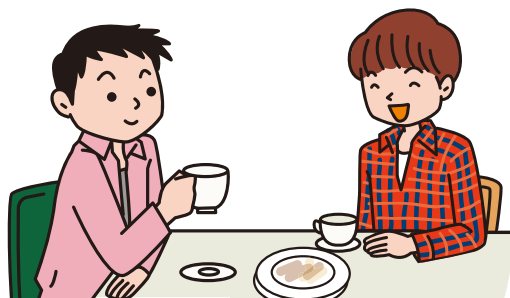
平日は正直言いましてほとんどの時間を課題に費やしていました。院生対象の授業ということもあってか、宿題として出される読み物の量が一つの授業につき200ページくらいあり、その上にプレゼンやレポートの課題が出されます。そのおかげでいくらハンバーガーを食べ続けてもなかなか太りませんでした。しかし、せっかく留学に来ているのに一日中机にへばりついていても仕方がないので、友だちとの時間も作るようにしました。ご飯を食べに行ったり、ジムで汗を流したり、プールで泳いだりいろいろ楽しませていただきました。毎週木曜日は翌日授業がないのでクラスメイトの家に集まってお酒を飲んだり、週末には近くの山にハイキングに行ったり、アトランタにお買い物をして行ったりしていました。

留学するにあたって一番大事だと言っても過言ではないであろう“食”に関しても、この地域は私に合っていたと思います。この辺りはBBQが有名らしく、美味しい豚肉を出してくれるお店がたくさんありました。この地域独特のお酢をベースにしたソースも大変美味しく、私はすぐ虜になってしまいました。お肉はちょっとという方もご心配なく。どのレストランに入ってもお肉を一

切使わない料理が用意されており、私自身も野菜が食べたい気分の際はそれらのメニューに大変助けられました。お酒もこの辺り独特のものがありません。“ムーンシャイン”というお酒なのですが、昔隠れてお酒を造らなければならない時期があり、月明かりのもとでこのお酒を製造していたことからこの名前が付けられたそうです。今では地元の酒屋さんにもおいてあるのですが、地元の方々とは仲良くなれば一味違う手作りのムーンシャインを飲むこともできると思います。

このように、実際に足を運ばなければ味わうことのできない醍醐味がこの土地にはたくさんあります。もちろん旅行で一週間ほど滞在するだけで味わうことのできる楽しさもあるのですが、1年ほどその地域にどっぷりつかった時に味わうことのできるものとは量も質も違うでしょう。いろんなことを分かち合える現地の友だちもたくさんでき、今でも連絡を取り合っています。他愛もない世間話から、現地の教育現場の事情まで、様々な内容の話をします。その中で、10か月という短い期間内で得ることのできなかつた情報を増やし続けています。新しい友人ができた事も含め、留学中に経験したすべての事が、今私にとってかけがえのないものになっています。少しでも興味がある方は是非留学されてみてはどうでしょうか。

〈院 言語系コース（英語）平成24年9月修了生〉



国際交流



真心を持って

◆ 学校教育研究科 ^{キョウ}姜 ^{キョク}旭（中国）

7月に徳島県外国人による弁論大会があり、日本の先生や友達からいろいろと助言や期待をいただいた自分は、「真心を持って」をテーマにしたスピーチで最優秀賞に入賞しました。スピーチは具体的には、挨拶が後輩の学生に無視されたという出来事に対し、考え方と対応方が「挨拶をしないという仕返し→不愉快を抑えて挨拶する→自分を反省して真心で挨拶する」と変化し、このことから、真心を持って日中友好に一步を踏み出してみようと決心した、という内容でした。

日中友好を主題にしたスピーチでしたが、つい最近、日本と中国の間で領土の問題について関係が緊張になってきています。「日本人に対する中国人の印象はいかがですか」と日本人の友達に聞かれたこともあります。それを知りたい時に、マスコミを信じて本当にいいのでしょうか。今のマスコミは普遍的に「Bad news is good news」の理念を信じているため、本当の善の内容をあまり報道しないのではないのでしょうか。しかし、日本でも中国でも国民の中では、「両国はお互いに相手の国の技術もマーケットも必要だし、戦争の悲劇も



最優秀賞を受賞した筆者

二度と繰り返したくない」と考えている人が一番多いというのが事実ではないかと思っています。私益を求めるために戦争を引き起こして、一番被害を受けるのはやはり国民ですから。

日本と中国がこれからも、色々な人の努力を込めたこの友好を続けることができるように心より願っています。

〈院 国際教育コース 2年〉

平成24年度 外国人留学生現員表

平成24年10月1日現在

区分	タイ	インドネシア	韓国	モンゴル	中国	台湾	東ティモール	ケニア	ルワンダ	メキシコ	フィジー	サモア	計
大学院学生	博士課程		1										1
	修士課程		3		21	1			2		2	2	31
教員研修留学生			1	1			1	1		1			5
研究生	博士				1								1
	修士												0
	学部					7							7
特別聴講学生	4				2	1							7
合計	4	3	2	1	31	2	1	1	2	1	2	2	52

備考：博士課程は本学に配属された兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科学生である。

健康手帳

虫刺症と西ナイル熱の流行

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



本学は、自然に恵まれて、良い環境にあると言えますが、夏場には蚊に刺されることがあります。また、毛虫のほか、ブヨ、アブ、蜂、ムカデに刺される人もいます。虫の毒の多くは酸性ですので、アンモニアで中和できる場合があります。処置が遅れると痒みや発赤が残ってしまいますが、こうなった場合には、ステロイド軟膏を使います。アレルギー反応を起こせば、局所症状が強くなり、発赤、熱感、腫れがひどくなります。アナフィラキシーショックをおこせば、顔色不良、呼吸困難、意識障害などの全身症状が強くなります。病院での治療が必要なレベルです。

蚊やある種の昆虫は病気を媒介します。東アジアにはコガタアカイエカが媒介する日本脳炎があります。他には、マラリア、デング熱、黄熱、フィラリア症、西ナイル熱、チングニアなどが蚊によって感染します。今年は、海外からの帰国者のデング熱とチングニアの発症が相次いでいるということです。

アメリカでは西ナイル熱が流行していて、最新のデータ（2012年9月13日）では、感染者数が2636人を越え、死者数が118人に達しています。260人を超える死者が出た2002年や03年に迫る勢いとなっているようです。今回の流行は深刻で、脳炎などの重症者が半数以上を占めているとのこと。西ナイル熱はイエカなど多種類の蚊によって媒介されるウイルスが原因です。自然界では感染した鳥と蚊の間で感染環が形成されていて、ヒトは感染した鳥の血を吸った蚊に刺されて感染します。このウイルスは、1937年にウガン

ダの西ナイル地区で分離されたウイルスです。アメリカでは1999年のカラスの大量死が発端となりましたが、今では、流行はほぼ全土に拡大しています。

さて、その昔、アメリカ東部はニューヨークあたりまでマラリアが発生していたそうですが、現在、アメリカでは野原や森で蚊や昆虫をみることはほとんどありません。アメリカの東海岸で蚊をみる場所といえば、シンコティエグの水辺のみと聞いていいほどでした。ここまで虫が減少した理由は、第二次世界大戦後、殺虫効果があるDDTが全土に散布されたためです。森林を保護するためと殺人アリの駆除するために行われたのですが、蚊やハエについても住民の逐一の通報により、小川や沼あるいは湖にも流し込まれて根絶されました。日本では学童の頭部の虱を駆除するために学校で使用されるなど、全世界で300万トンが使用されましたが、この量は、全地球表面を白く覆うほどの量なのだそうです。しかし、DDTは自然界で分解されず、魚や鳥に蓄積して環境破壊を起こすことが分かってきました。レイチェル・カーソンが「沈黙の春」という本でこのことを訴えたのが1962年でした。その後、1970年頃には使用されなくなりましたが、西ナイル熱が流行しているのを見ると、各地で蚊が復活しているのかもしれない。

「アメリカや浜の真砂は尽くるとも世にモスキトの種は尽くまじ」ということでしょうか。

～学生相談窓口紹介～



不安…、やる気が起きない…、人間関係で悩んでいる…、一人で悩まないで、誰かに話しを聞いてもらいましょう。相談の秘密は厳守しますので、自分が相談しやすい窓口を気軽に利用してください。
お話を伺って、より適切な相談窓口の紹介も行います。



心身健康センター【本部棟1階】

*身体面について相談したいとき

けがや病気など身体のことでの心配がある人は、健康相談が受けられます。必要に応じて、検査や応急の治療を行います。当センターで対応できない場合、医療機関に紹介します。

- 日 時：月～金曜日 10時～16時
- 担当 医師：廣瀬政雄（心身健康センター所長）

*心理面で相談したいとき

不安や悩みなど、心理的なことでの心配がある人は、心理相談が受けられます。

修学上または生活上の問題を初めとして、どんな小さな問題や心配ごとにも心おきなく相談を受け、解決への糸口を見いだしてもらうことを願っています。

- 要 予 約：心身健康センター 088-687-6631
- 日 時：本学担当教員への相談：随時
カウンセラーへの相談：水・木曜日（12時00分～17時00分）

学生総合相談室【本部棟1階・学生課学生生活支援チーム】

主として学生の修学・研究等学生生活の相談を行っています。少しの疑問や、どこに質問したらいいかわからない時など、気軽に利用してください。

- 相談の受付：面接、手紙、電話（088-687-6118）、メール（gakusei@naruto-u.ac.jp）
- 担 当 者：アドバイザー（本学教員5人）又は事務職員

※メールで申し込みをされる場合は、必ず学籍番号、氏名等を明記してください。

ピア・カウンセリング【人文棟4階】

「ピア（peer）」という言葉は、「仲間」という意味で、本学のピア・カウンセリングは、大学院生が学部学生の学習・生活上における悩み解決を支援する学生相談制度です。鳴教大の先輩であり、カウンセリングの基礎を学んでいる大学院生が相談ののってくれます。専門の教員がバックアップしますので、安心してご利用ください。

相談したい場合は、第2心理テスト室（人文棟A409）前に設置の「ピア・カウンセリング相談BOX」に相談用紙（BOX横）を投函してください。

その他の相談窓口 履修、就職のことなど、分からないことは、とにかく聞いてみよう！

- 教務課（本部棟1階）……………修学（履修、単位取得、教員免許状、教育実習等）に関する相談
- 就職支援室（講義棟1階）………教員採用試験及び就職活動に関する相談、指導
- ハラスメントに関する相談員…詳細は大学WEBに掲載

(TOP > 教育・学生生活 > キャンパスライフ > ハラスメントについて)



情報基盤センター

より

お知らせ

～端末室を活用するためのヒント～

情報基盤センターのパソコンには多くのソフトウェアがインストールされているのを知っていますか？ officeを使ったレポートの作成やWebページの閲覧はよく利用されているようですが、実はさまざまな作業をサポートするためのソフトウェアがインストールされています。今回はそれらの中から代表的なものを紹介します。

I 動画編集

ビデオカメラやデジタルカメラで動画撮影したデータを編集できます。動画のデータは大きくなるので、データの保管はUSBメモリなどを活用してください。

- ・ムービーメーカー …… 簡単な操作で編集。全てのWindowsで使えます。
- ・Movie Studio HD 11 …… より高度な編集ができます。教育用端末室の一部で使えます。
- ・Premiere …… 本格的な編集ができます。Mac端末で使用できます。

II グラフィック

- ・Creative Suite 2 …… Adobe社のグラフィック関連ソフト群 (photoshop, Illustratorなど)。マルチメディア教育実習室で使用できます。

III 統計解析

アンケート結果の分析などに利用できます。研究などに活用してください。

- ・SPSS …… 学内25台同時起動ライセンス。個人のパソコンにもインストール可能です。
- ・R …… フリーソフトです。無料で利用できるため最近人気があります。Win端末で利用できます。

IV その他

- ・Muse Score …… 楽譜作成ソフト (フリー)。Win端末で利用できます。
- ・Origin …… 多彩なグラフを作成できます。学内10台同時起動ライセンス。個人のパソコンにもインストール可能です。

ここで紹介した他にも有償/無償のソフトウェアが多数インストールされています。スタートメニューを眺めて気になるものがあれば試してください。

また、ソフトウェアではありませんが、いくつか便利なコンテンツやネットサービスを紹介します。

Office 2010 …… マイクロソフト社Office 2010のトレーニング用コンテンツです。Officeのトレーニングキット

file://cembalo.naruto.local/Public/Documents/training2010/index.htm

オンラインストレージ …… センターのサービスではありませんが、マイクロソフトSkydriveやgoogle driveなどインターネット上のサーバーにファイルを保管できるサービスが登場しています。オンラインストレージはどこからでもアクセスできるので、自宅と大学でデータを共有する場合に便利です。ぜひ活用してください。

情報基盤センターFAQ…… センターを利用する上でのさまざまな情報提供を行なっています。センターを利用する際に疑問に思ったことがあればまずここを確認してください。

<http://www.naruto-u.ac.jp/center/it/faq/>



この秋は新しいソフトにチャレンジして可能性を拡げてみましょう！

～情報基盤センターからのお願い～

- ◆ 端末室は教育，研究を行う場所です。飲食やゲーム，雑談などは他の利用者に迷惑がかかるので止めてください。
- ◆ 10月1日より，音楽・映像の違法ダウンロードへの刑事罰が適用される場合があります。インターネットから音楽・映像をダウンロードは適切なもののみ行ってください。

参考：<http://www.stopillegaldownload.jp>

なるきよう通信 大学からのお知らせ

これから年末にかけては忘年会やクリスマスパーティー，卒業シーズンにかけては追いコンや卒業パーティなど，お酒とつきあう機会が多々あるかと思えます。

しかし，仲間のみinnで楽しく飲むためには，マナーや節度を守ることが必要です。お酒に振り回されて独りよがりを楽しんでも，まわりのみinnが必ずしも楽しんでいるとは限りません。

楽しい大学生活を送るためにも，次のようなことに注意して，事故のない飲み会を楽しんでください。

- ◆ 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。
一緒にいる人は，未成年者に飲ませないよう注意してください。
- ◆ 後輩や仲間に対する，会合への参加及び飲酒の強要はしてはいけません。
また，断る意志をはっきり示すことも大切です。
- ◆ 空腹時，薬を服用する時，体調の悪い時等には飲まないほうがよいでしょう。
- ◆ イッキ飲み，大量飲酒など無謀な飲み方は急性アルコール中毒への近道です！
絶対にやめましょう。
- ◆ 酔って周囲に迷惑をかける行為（悪ふざけ，暴言・暴力，セクハラ，その他器物損壊 など）は，慎んでください。
- ◆ たとえ少量の飲酒であっても，飲酒運転は絶対にいけません。
- ◆ 学内での飲酒は，特に許可された場合以外，全面禁止です。

■ 万が一，急性アルコール中毒が起きてしまったら… ■

友達が飲み過ぎて倒れてしまったら，すぐに救急車を呼んでください。また救急車が到着するまで一人きりにしないで，誰かが必ず付き添ってください。

環境活動

(エコアクション21の対象範囲拡大)

(H24年度)

エコアクション21とは、学長の環境方針に基づき、環境活動計画を設定し、省エネ、省資源、ゴミ削減等に、本学の教職員及び学生が一体となり自主的・積極的に取り組む活動です。**鳴門サイト(高島団地)の活動が、平成24年3月27日にエコアクション21の認証・登録を取得しました。今年度は徳島サイト(附属学校園)の認証・登録を目指しています。**



エコアクション21認証・登録証を手にする田中学長



- ① 使用していない箇所の**照明**は気づいたら、消そう!
- ② **エレベーター**の使用を控えよう!
- ③ **節水**しよう!
- ④ **紙**は両面印刷、裏面の再利用をしよう!
- ⑤ **ゴミ**は分別し、必要でない物は持ち込まないようにしよう!

大学ホームページも要チェック! <大学案内 → 法人情報 → 環境への取り組み>

▶▶▶ <http://www.naruto-u.ac.jp/information/08/014.html> ◀◀◀

大学は、皆さんのエコ活動を応援します!!

附属学校園の活動

本学附属学校園の活動をいくつかご紹介します。
皆さんが教員になられた際の教育に活かす**ヒント**を探してみてください。

附属幼稚園

- ・ゴーヤなどのつるものの野菜を栽培し、直射日光を遮ります。収穫した野菜は園児のおやつにしています。
- ・園児に自然に慣れ親しんでもらい、遊びの中から学んでもらいます(パンフレット『遊誘財』で、活動を紹介)。



附属小学校

- ・調理実習等の機会に、ゴミの分別方法を学習しています。
- ・保護者会による制服・体操服のリサイクル活動をしています。



附属中学校

- ・生徒会本部役員の呼びかけで、ペットボトルキャップやリングプルの回収をしています。
- ・環境についての授業(理科、英語、総合的な学習)をしています。



附属特別支援学校

- ・牛乳パックを再利用し、しおりやはがきを作っています。
- ・ゴミ箱を種類ごとに分けて、分別に取り組んでいます。



募集!

エコ活動を率先している個人・クラス・サークル等の活動をご紹介下さい!!
大学生活やサークル活動で心がけていること等、どんな些細なことでも構いません。
メールにて、下記の連絡先までお願いします。

本部棟3階 施設課 E-mail sikikaku@naruto-u.ac.jp まで

行 事 等				
共通	10月1日(月) 創立記念日(31周年) 10月2日(火) 授業開始 10月9日(火) 「後期履修登録」締切 10月10日(水)～10月16日(火) 後期履修登録変更期間 11月16日(金)～11月18日(日) 大学祭・学生表彰表彰状授与式 12月26日(水)～1月6日(日) 冬期休業 1月下旬(土) サークル・リーダーシップ・セミナー 3月18日(月) 学位記授与式, 学生表彰表彰状授与式, 満上賞授与式			
	学部	10月15日(月)～10月28日(日) 施設実習(2年)〔鳴門こども学園等〕のうち10日間 10月22日(月)～10月26日(金) 特別支援教育観察実習(4年)〔附特別支援〕 10月23日(火)～10月24日(水) 3年次生合宿研修 10月29日(月)～11月9日(金) 副免教育実習(4年)〔附小・中〕 10月22日(月)～11月16日(金) 特別支援教育実習(4年)〔附特別支援, 県立特別支援〕のうち2週間 12月18日(火)～12月25日(火) 集中講義 1月31日(木) 「卒業研究」提出締切 2月27日(水)～3月5日(火) 後期試験期間 3月6日(水)～3月31日(日) 学年末休業		
		修士	11月30日(金) 1年次生(長期履修2年)「学位論文計画書」提出締切 11月30日(金) 2年次生(長期履修3年)「学位論文計画書(変更届)」提出締切 12月18日(火)～12月25日(火) 集中講義 1月18日(金) 2年次生(長期履修3年)「学位論文」提出締切 3月1日(金)～3月31日(日) 学年末休業	
			専門職	1月18日(金) 2年次生「最終成果報告書」提出締切 3月1日(金)～3月31日(日) 学年末休業

入試関係行事

- 学部推薦 (I型) 11月23日(金)
- 大学入試センター試験 1月19日(土)～1月20日(日)
- 学部推薦 (II型) 1月29日(火)
- 学部入試 (前期) 2月25日(月)～2月26日(火)
- 学部入試 (後期) 3月12日(火)
- 大学院入試 (中期) 12月1日(土)
- 大学院入試 (後期) 3月10日(日)

学生会主催行事

- クリスマス・イルミネーション 11月末～12月
- 卒業記念パーティ 3月18日(月)

院学生会主催行事

- ソフトボール大会 12月8日(土), 9日(日), 16日(日)

※詳細は就職支援室で確認すること。

就職支援行事予定

- 3年次生合宿研修 10月23日(火)～24日(水)
- 大学院生就職研修会 11月3日(土)
- 教採対策ガイダンス(基礎編) 11月7日(水)～2月20日(水) 毎週水曜日 (ただし11/21, 12/19, 12/26, 1/2, 1/16を除く)
- 教採対策ガイダンス(論作文編) 11月21日(水), 1月16日(水)
- 就職ガイダンス(企業) 11月7日(水), 12月5日(水)
- 就職ガイダンス(公務員) 11月14日(水), 2月6日(水)
- 就活対策ガイダンス①～⑦ 11月28日(水), 12月5日(水), 12月12日(水), 12月13日(木), 1月9日(水), 1月16日(水), 1月23日(水)
- 教採実技ガイダンス(模擬集団討論) 12月8日(土)
- 本学出身教職関係者との情報交換会 2月2日(土)
- 教採実技ガイダンス(模擬授業・個人面接) 2月16日(土)
- 就職ガイダンス(国立大学法人) 2月13日(水)
- 教員採用模擬試験 3月2日(土)

編集後記

『学園だより』第66号をお届けします。

本学は小規模な大学でありながら、研究・勉学はもとより、課外活動、大学祭やボランティア活動などに常に全力で取り組み、学生たちは他の大学に負けないくらいの輝きを見せています。本号が学生の皆さんの日々の活動を紹介することで、この「輝き」の一端でもお伝えできたら幸いです。また、この『学園だより』には学生生活に役立つ様々な情報が盛り込まれていますので、ぜひ参考にいただければと思います。

最後になりますが、ご投稿いただきましたすべての方に心より感謝申し上げます。(M.H.)

